



# Emergency Watch NO. 46 Oct, 2014



神戸こども初期急病センター 2014年9月受診者数：1853人



## 訴え

1. 発熱：1054人（728人）
2. 咳嗽：840人（232人）
3. 鼻汁：570人（18人）
4. 嘔吐：305人（95人）
5. 呼吸困難：293人（215人）

（カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数）

## 疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎：500人
2. 感染性胃腸炎：210人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎：158人
4. クループ性気管支炎：146人
5. 気管支炎：102人

## ☆ 今月のワンポイント ☆

暑い日、寒い日と極端に天候が変わり体温調節が難しく、子ども達にとっては体調を崩しやすい季節ですね。毎日の手洗い・うがいはもちろんですが、衣服で温度調節しながら風邪などひかないようお気をつけください。

9月の神戸こども初期急病センターへの受診患者さんの数は、8月に比べて若干減少し、1853名でした。最も多かったのは急性上気道炎・咽頭炎でしたが、ヘルパンギーナなどの夏風邪の流行はピークを超えたようです。一方で、気管支喘息やクループといった咳嗽、喘鳴（ゼーゼー）、呼吸困難などの症状を訴えるお子さんの受診が目立ち始めました。

そこで今回は、気管支喘息について保護者の方々からよく質問される事項についてQ&A方式で述べてみたいと思います。気管支喘息は入院治療が必要になることが多い疾患です。御参考にさせていただければと思います。

Q1：喘息発作が起りやすい季節や時間帯はありますか？

A1：喘息患者さんでは、深夜～早朝にかけてモーニングディップと呼ばれる呼吸機能の低下が認められ、これにより咳嗽、喘鳴（ゼーゼー）などの特徴的な症状は深夜～早朝に多く出現します。同様に季節変動もあり、5月～7月と10月～11月に発作の回数が増える傾向があります。



Q2：夜間子どもが眠っている最中にゼーゼーする時は、どのように対処すれば良いですか？

A2：ゼーゼーしていてもお子さんがすやすや眠れているようであれば、無理に起こす必要はないと思います。発作が強くなれば、呼吸が苦しくて自分から目を覚ますことが多く、そのような場合は気管支拡張剤の内服や吸入で対応します。夜間で症状が強く、手持ちのお薬がない場合等は当院へ一度御相談下さい。

Q3 喘息発作の予防にはどのようなものがありますか？

A3：①風邪をひかないように心がける・・・手洗い・うがい、規則正しい生活、適度な運動  
②環境の整備・・・部屋の掃除・換気、御家族の禁煙・分煙  
③発作予防の薬剤を服用する・・・オノン、キプレス、シングレア、ステロイド吸入などがあります。発作がよく起こる場合は、かかりつけ医の先生と相談してみましょう。

いかがだったでしょうか？これから季節は秋から冬に向かいます。どうかくれぐれもみなさん、体調には十分にお気をつけて元気で楽しい毎日を過ごしましょう。